

盲人之弊

悲ビ喜ビケリ、此レヲ見聞ク人、觀音ノ利益ノ不可思議ナル事ヲ敬ヒ奉ケリトナム、語リ傳ヘタルトヤ、

〔風俗見聞錄三〕盲人の事、世に五體不具の者多しといへ共、其内に盲人ハ支離の最第一なるものなり、第一、日月星辰の照明成事をしらす、父母の顔を見る事能はず、生來天の惡みを深く受たるもの也、凡天地の間に、禽獸魚鼈及蟬虫の類迄も、目のなきものはなく、盲と云もなし、いかなるにや、人にハ盲多出來る也、是人情の虛實を發るもの歟、扱替者の人情を試るに、何れも行氣強く、我儘強く、殊に殘忍也、只人を欺き貪るの情一圖にして、少も人の爲に預り聞情なし、又人の實情なる事も誠とせず、己が心に競て、是人を訛すの方便ならんと疑ふ也、尤目のみへざる故、か様に狐疑に成、手前勝手なりし物か、おもふに左にあらず、平人にも右體殘忍の情強き者、必中年にして目玄ゆる也、是を以て見れば、人情馳限りて天罰冥罰の至極せしものと見ゆ、然るに今盲人に官職の途有事、不審千万也、右體禽獸魚鼈にも劣りて、日月を拜する事の成ぬ者が、天子へ拜謁し、天盃を戴き、又人情馳限りて天罰冥罰の至極せし離支が、公儀へ御目見いたし、拜領ものを致事、奇怪の事共也、少も國家の役にハ立べき事なく、人のために成事なく、誠に世の費人、厄介成者が、何をもて高官に昇り、天下國家の寵を受、身の安體を極る事也、中 檢校は比叡山に一人、高野山に一人のみ成しが、此性佛檢校、盲人共の司と成給ひし後ハ、盲人の重官と成て、比叡山に座頭檢校の名目絶しと云、今ハ高野山に一人有のみ也、高野山に於ても、今千有餘の學侶の内を勝たるを三十人撰び、擧て集議といふ、集議、三十人の内より七人を撰み、擧て碩學と云、碩學七人の内を二人を擧て行司といふ、其行司二人の内を擧用ひて檢校に進む也、誠多年の法勞を積上て、佛勅冥慮に叶はずんば、此官職に昇がたし、皆中途にして運命極る也、比叡山に於て御定右の如き極にてあらん、然るを盲人の官職となりし事實に勿體なし、時得て攝政家道公の御威光を以て、計ら